

令和 6 年 3 月 1 日

## マレーシア 観測活動報告書

氏名： 加藤彰紘

所属： 九州大学理学府地球惑星科学専攻 修士 2 年

滞在期間： 令和 6 年 2 月 18 日～令和 6 年 2 月 24 日

マレーシア磁力計観測点にて、ペナン：磁力計データロガー交換(2/19)と品質チェック(2/20)、ジョホールバル：磁力計 GPS 問題の解決(2/21, 2/22)、クアラルンプール：磁力計移設先の視察とメンテナンス(2/23)を行った。

ペナン観測点では、まず現状確認を行ったところ、GPS アンテナの固定具が破損していた。そのため、アンテナを固定する作業を実施。その後、日本から持参したデータロガーを接続し、正常に記録されるか確認。さらに、水平器と D 成分を確認、キャリブレーションが必要であることがわかり、調整作業を行った。前日の雨により地面がぬかるみ、靴を取られた(長靴必須)。磁力計データは MAGDAS Near Real Time Plot(<http://magdas2.serc.kyushu-u.ac.jp/realtime/index.php>)より確認できる。



ジョホールバル観測点では、まず現状確認を行い、ロガーのディスプレイ故障が確認されたため、後日、日本から部品を送付することになった。その後、予定していた GPS ロールバックの修正作業を実施。水平器に異常が見られ修正、iX 成分の値が 900 から 0.1 まで改善した。データ整備については、CF カードのデータ読み込みとプロットに関する指導を現地スタッフに行った。データは MAGDAS Near Real Time Plot より確認できる。



クアラルンプール観測点では、マレーシア国民大学にて磁力計設置候補地の視察と打ち合わせを行った。現地側から 2 地点について候補をいただいたが、磁力計に影響を与える車の出入り、人の往来、電線・電子機器からの距離を測定し、最適な候補地を選択した。



現地の研究者や学生と国際地上多点ネットワーク観測網(MAGDAS)についての講習会や研究議論を通して研究の視野が広がった。これらの知見を自身の研究活動に生かす。